



平成 23 年 10 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所  
(コード番号：4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1  
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉  
問 合 せ 先 取締役経営企画室長 木 下 憲 明  
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)  
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

## 「アンジオポエチン様タンパク質2 (ANGPTL2) 測定キット」の販売開始について

本日、当社は、熊本大学大学院生命科学研究部(尾池雄一教授)と共同開発を行ってまいりました新製品、「ヒト血中アンジオポエチン様タンパク質2 \*1 (以下「ANGPTL2」という) 測定キット」の販売を開始いたしますのでお知らせいたします。

### 【概要】

肥満は世界規模で増加の一途をたどっており、肥満に伴う糖尿病や心血管疾患の増加は世界的にも大きな社会的な問題となっています。熊本大学大学院生命科学研究部、尾池教授らは、2009年に、肥満の脂肪組織において慢性炎症の原因となり、メタボリックシンドローム\*2を引き起こす原因分子として、ANGPTL2を同定しました。これまでの研究により、肥満では内臓脂肪組織からのANGPTL2分泌が増加し、脂肪組織の慢性炎症を引き起こすこと、それにより全身でのインスリン抵抗性が生じ糖尿病の発症につながっていることが分かっております。また、ANGPTL2の増加が、動脈硬化症の前病変として考えられている血管内皮細胞の炎症性病変を引き起こすことも分かっております。さらに最近では炎症性病変から多くのがん病変への進展において、血中ANGPTL2の増加を示す研究が報告されております。当社は尾池教授グループとの共同研究により、ヒト血中のANGPTL2を定量的に測定できるキット開発を行い、今回の販売開始に至っております。また、本測定キットは当社が現在開発を注力しております、糖尿病や脂質代謝関連測定キット新製品の一つであります。

なお、平成24年3月期の業績への影響は現在軽微と考えられますが、影響が確認できましたら別途適時開示いたします。

以上

### 【用語解説】

#### \*1. アンジオポエチン様タンパク質2 (ANGPTL2: Angiotensin-like protein2)

アンジオポエチン様タンパク質は血管新生因子であるアンジオポエチンに構造上類似する分泌型タンパク質として同定され、現在7種類存在します。本研究で機能を明らかにしたANGPTL2のように血管細胞や単球細胞に作用するもののほかに、ANGPTL3やANGPTL4のように脂質代謝やAGF/ANGPTL6のようにエネルギー代謝に作用するものも存在し、ANGPTLファミリーに属する因子の多様な生物学的作用が、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病やがんの新しい治療標的として注目されています。

#### \*2. メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満によりインスリンの働きが低下するなどの糖代謝異常(糖尿病の前段階)、脂質代謝異常(高中性脂肪血症、低HDLコレステロール血症)、血圧上昇(高血圧の前段階)などが、一個人に集積している状態をいいます。